



友愛の森(二中だより)



東門横にある「考える生徒」石碑

学校教育目標

二中文化を創造する生徒

学びが深まる授業の創造・認め合える学級の創造・共に高め合う学校の創造

令和6年8月28日発行

『3つの「り」』

34日間の夏休みが終わり、生徒たちは元気に2学期のスタートをきることができました。保護者の皆様、地域の皆様には、夏休み期間中、二中学生を温かく見守っていただき感謝申し上げます。

久しぶりに生徒たちの元気な笑顔があふれ、学校全体が生き生きとしています。また、友達と交わす生徒たちの笑顔には、夏休みを楽しく過ごした充実感と2学期への希望があふれています。

いよいよ2学期が始まりました。しばらくは、残暑厳しい毎日が続きますが、熱中症等にはくれぐれも注意し、早く学校生活のリズムを取り戻してほしいと願っています。

2学期の始業式では、次のような話をしました。



長いようで、終わってしまうとあっという間の夏休みでした。34日間の夏休みはどうでしたか。こうやって皆さん一人一人の姿を見ると、一回りも二回りも大きくなって、たくましくなったように感じます。きっと、夏休みにしかできない経験がたくさんできたのだと思います。

今日の話は、『3つの「り」』についてです。

『3つの「り」』とは、①「かかわり」②「やくわり」③「がんばり」

のことです。この3つの言葉には、終わりに「り」という文字がついています。

①「かかわり」とは、課題や問題に自分から取り組むことです。

②「やくわり」とは、自分の役割を考えてしっかりと果たし協力することです。

③「がんばり」とは、目標や課題、役割を最後までやり抜くことです。

この『3つの「り」』は、皆さんに身に付けてほしいコラボレーション力につながっています。

2学期には希翔祭という二中学生にとって特別な行事があります。文化の部、運動の部ともに、二中学生みんなが力を合わせて1つになり、演技や演奏、合唱等を行います。みなさんが、係の仕事をしたり、競技に参加したりするなど、様々なことに全力で取り組む姿がたくさん見られると思います。どんな力を発揮して見せてくれるのか、先生たちはもちろん、保護者や地域の方も楽しみに期待しています。

この2学期を実り豊かにし、皆さんが大きく成長してほしいと思い、『3つの「り」』について話をしました。「かかわり、やくわり、がんばり」の『3つの「り」』を大切にしていきましょう。

2学期始業式生徒代表の言葉

1年2組 塩川智己さん 2年3組 芹澤夢香さん

3年2組 高井健汰さん 5組1 赤池優花さん

新学期への意気込みを感じる素晴らしい発表でした。全校生徒で「ウェルビーイング」を築いていきましょう！



中体連大会・コンクール等 完全燃焼しました!!

(敬称略)

○大会・コンクールでの表彰

【 男子バドミントン部 】

男子団体の部 団体戦5位（前林盟斗・中澤柊哉・大山穂音・後藤陽輝・寺田光汰・松本優斗・望月悠心）県大会出場

【 女子バドミントン部 】

女子団体の部 団体戦2位（鈴木咲良・山田明麻琳・望月萌生・佐野菜々美・吉崎綾海・久保田加緒・塚田芹椰）県大会出場

女子個人の部 ダブルス2位（佐藤花奈・塩川希羽） 県大会5位

【 女子卓球部 】 団体戦2部 3位（金森心花・中司有紀・花村衣織・深澤実結・石川美玖・海野絢音・前林萌由）

【 吹奏楽部 】 静岡県吹奏楽コンクール中学生部門東部地区大会B編成の部銀賞

（飯田義龍・石川結愛・北美音・野原凜・松永萌生・佐野友彩・高井健汰・弘重一乃・佐藤るるあ・大村玲奈・芹澤夢香・望月翼沙・廣岡恒祁・本田穂華・遠藤奨・小野紬・税所七海・塩川智己）

「キッズゲルニカ」が完成しました!

美術部の皆さんが、1学期末から長い時間をかけて、「キッズゲルニカ」を完成させました。8月26日に全校生徒の皆さんへのお披露目会が市長須藤秀忠様、教育長望月俊伸様を来賓としてお迎えし、実施されました。

美術部の皆さんからは、どのような思いでデザインしたのか、平和についてどのような思いを持っているのかについて話していただきました。富士宮第二中学校から世界に向けて平和への願いが広まるとよいと思います。



「平和を想う作文コンクール」市長賞受賞 佐野菜々美さん

富士宮市主催の「平和を想う作文コンクール」において、3年生佐野菜々美さんが「市長賞」を受賞し、8月15日に行われた「富士宮市戦没者慰霊式典」前に行われた表彰式にて、作文を読み上げました。

作文では、社会科の授業で学んだ北方領土のことを取り上げ、北方領土からは遠い位置にある静岡でも、北洋漁業を通じた関わりや下田市での県民会議結成の機運が高まっているなど、多くの関わりがあることを発表しました。また、現在進行中のロシアのウクライナ侵攻などにも触れ、「私たち自身がこの地球という小さな星でこれからの未来を創る立場の人間として生きていく必要がある」と締めくくり、世の中の出来事を「自分ごと」にしていく大切さを訴えました。

